改 正 案	現 行
<p>建築基準法施行令第百十二条第十六項に規定する建設大臣が定める構造方法を定める件</p> <p style="text-align: center;">昭和五十六年六月一日 建設省告示第十九十七号</p> <p>建築基準法施行令（昭和二十五年政令第三百三十八号。以下「令」といふ。） 第百十二条第十六項の規定に基づき、防火設備の構造方法を、次のとおり定める。</p> <p>第一 令第百十二条第十六項各号に掲げる要件を満たす防火設備の構造方法は、次の各号のいずれかに該当する場合（二以上の階にわたり煙が流出するおそれのない場合その他避難上及び防火上支障がないと認められる場合を除く。）にあつては、第二に規定するものとし、それ以外の場合にあつては第三に規定するものとする。</p> <p>一 風道が、建築基準法施行令第百十二条第一項第二号、第四項、第八項、第九項、第十二項又は第十三項の規定による防火区画を貫通する場合</p> <p>二 主要構造部を耐火構造又は準耐火構造とし、かつ、地階又は三階以上の階に居室を有する建築物において、二以上の階に換気口等（空気吹出口又は空気吹込口をいう。以下同じ。）を有する同一系統の風道が、換気口等を有する階の直上の耐火構造等の防火区画である床を貫通する場合</p>	<p>火災により自動的に閉鎖するダンパーの基準</p> <p style="text-align: center;">昭和五十六年六月一日 建設省告示第十九十七号</p> <p>建築基準法施行令（昭和二十五年政令第三百三十八号）第百十二条第十六項第一号の規定に基づき、火災により煙が発生した場合又は火災により温度が急激に上昇した場合に自動的に閉鎖するダンパーの基準を次のように定める。</p> <p>第一 設置の基準</p> <p>一 次の（一）又は（二）に該当する場合（二以上の階にわたり煙が流出するおそれのない場合その他避難上及び防火上支障がないと認められる場合を除く。）においては、火災により煙が発生した場合に自動的に閉鎖する構造のダンパーを設けなければならない。</p> <p>（一） 風道が、建築基準法施行令第百十二条第一項第二号、第四項、第八項、第九項、第十二項又は第十三項の規定による防火区画を貫通する場合</p> <p>（二） 主要構造部を耐火構造又は準耐火構造とし、かつ、地階又は三階以上の階に居室を有する建築物において、二以上の階に換気口等（空気吹出口又は空気吹込口をいう。以下同じ。）を有する同一系統の風道が、換気口等を有する階の直上の耐火構造等の防火区画である床を貫通する場合</p>

第二 次の各号に掲げる基準に適合し、かつ、別記に規定する漏煙試験に合格した防火ダンパーであるもの

一 鉄製であること。

二 昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第一第二号八から十(二(二)を除く。)に掲げる基準に適合すること。

三 煙感知器は、次に掲げる場所に設けるものであること。

イ 間仕切壁等で区画された場所で、当該防火戸に係る風道の換気口等がある場所

ロ 昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第一第二号二(二)のロ及びに掲げる場所

第三 次の各号のいずれかに該当するもので別記に規定した漏煙試験に合格したもの

一 前号に定める場合以外の場合においては、火災により煙が発生した場合に自動的に閉鎖する構造のダンパー又は火災により温度が急激に上昇した場合に自動的に閉鎖する構造のダンパーを設けなければならない。

第二 火災により煙が発生した場合に自動的に閉鎖するダンパーの構造基準

一 第一第一号により設けられる火災により煙が発生した場合に自動的に閉鎖するダンパーの構造は、次に定めるところによること。

(一) 昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第一各号(第二号(一)を除く。)に適合すること。この場合において、同告示第一第四号の(一)中「防火戸」とあるのは、「ダンパー」と読み替えるものとする。

(二) 前号によるダンパーの煙感知器は、次に掲げる場所に設けるものであること。

イ 間仕切壁等で区画された場所で、当該ダンパーに係る風道の換気口等がある場所

ロ 昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第一第二号(二)のロ及び八に掲げる場所

二 第一第二号により設けられる火災により煙が発生した場合に自動的に閉鎖するダンパーの構造は、昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第一各号に適合すること。この場合において、同告示第二号の(二)イ及び第四号の(一)中「防火戸」とあるのは、「ダンパー」と読み替えるものとする。

第三 火災により温度が急激に上昇した場合に自動的に閉鎖するダンパーの構造基準

一 鉄製の防火ダンパーであつて、昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第一第二号八からトまでに掲げる基準に適合するもの

二 鉄製の防火ダンパーであつて、昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第二第二号ロ及びハ（（二）を除く。）掲げる基準に適合するもので温度ヒューズが、当該温度ヒューズに運動して閉鎖する防火設備に近接した場所で風道の内部に設けられていること。

一 第一第二号により設けられる火災により温度が急激に上昇した場合に熱感知器と運動して自動的に閉鎖するダンパーの構造は、昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第二第一項に適合すること。この場合において、同告示第一第二号の（二）イ及び第四号の（一）中「防火戸」とあるのは、「ダンパー」と読み替えるものとする。

二 第一第二号により設けられる火災により温度が急激に上昇した場合に温度ヒューズと運動して自動的に閉鎖するダンパーの構造は、次のイ及びロに適合すること。

イ 昭和四十八年建設省告示第二千五百六十三号第二第二項第一号及び第三号に適合すること。

ロ 温度ヒューズが、当該温度ヒューズに運動して閉鎖するダンパーに近接した場所で風道の内部に設けられていること。

ダンパーとしての機能を確保するための構造の基準

（昭四八・一二・二八 建告二五六五）

建築基準法施行令（昭和二十五年政令第三百三十八号）第百十二条第十六項第四号の規定に基づき、ダンパーとしての機能を確保するための構造の基準を次のように定め、昭和四十九年一月一日から施行する。

別記

漏煙試験方法 略

附 則

この告示は、平成十二年 月 日から施行する。

一 ダンパーは、次の要件に該当するもので、別記に規定する漏煙試験に合格したものであること。

(一) 加熱により著しい変形を生じないものであること。

(二) ダンパーに使用するスプリング、軸受けその他の可動部材は、腐食しにくい材料を用いたものであること。

二 ダンパーの設置方法は、次に定めるとおりとすること。

(一) 主要構造部に堅固に取り付けること。

(二) ダンパーを耐火構造等の防火区画に近接する部分に設ける場合にあつては、ダンパーと当該防火区画との間の風道は、厚さ一・五センチメートル以上の鉄板でつくり、又は鉄網モルタル塗その他の不燃材料で被覆すること。

三 ダンパーは、天井、壁等に一辺の長さが四十五センチメートル以上の保守点検が容易に行える点検口並びに翼の開閉及び作動状態を確認できる検査口を設けたものであること。

別記

漏煙試験方法 略